

令和7年11月5日（水）【秩父市長 職員向けメッセージ】

職員の皆さん、おはようございます。市長の清野です。

早いもので、今年も11月となりました。私も市長に就任してから、半年が過ぎました。時間の流れの早さを実感しています。

先日、一般社団法人秩父青年会議所の主催により、秩父市政施行50周年記念事業「西暦2025年へのメッセージ」タイムカプセル開封式が、羊山公園で行われました。

このタイムカプセルには、2000年当時書かれた25年後へのたくさんの想いが詰まった手紙が入っており、その中には、当時の内田全一市長から2025年の市長への手紙もありました。

その手紙には、当時の秩父市が掲げていた「伝統の温かみと新鮮な感動を咲かすまち」という将来像とともに、道の駅の建設や市町村合併の推進など、当時の課題に取り組む強い意欲が記されていました。

25年の時を経て届いたその手紙には、胸に深く響くものがありました。

この経験から、私は「受け継がれる意志」という言葉を強く意識しました。

時代は変わり、秩父市も合併などを経てその姿を変えてきましたが、市民の幸福のために力を尽くすという最も大切な意志は、今も変わることがありません。

私たちが日々取り組んでいる仕事は、過去の市政を支えてこられた多くの方々の努力と願いの上に成り立っています。

道路一本、施設ひとつにも、誰かの「市民のために」という想いが込められています。

そして私たちは、その想い、その意志を受け継ぎ、次の世代へとつないでいく責任を担っています。

未来に向けて仕事を進めるとき、過去に想いを馳せることは、私たちに力を与えてくれる。私はそう信じています。

「受け継がれる意志」。私たちは、長い歴史の中でバトンを受け取った走者です。

今、私たちが積み重ねている一つひとつの仕事が、いつか未来の世代の礎となる。そう信じて、また今日からともに頑張っていきましょう。

市役所庁内や市内でのイベントなどで、職員の皆さんとお会いし、お話しできることをいつも楽しく感じています。私を見かけたら、気軽にお声がけください。

今月もどうぞ、よろしくお願いいたします。